

ゴリラ岩

JR八戸線の陸中中野駅から海沿いに南下すると、洋野町と久慈市の境にあたる高家(こうげ)川があります。

(車で移動するには、陸中中野駅の手前でいったん北上して道なりに進み、右に曲がる急カーブを抜けると海沿いに南下できます。)

その高家川の北側にある高家(こうげ)漁港に向かう途中にゴツゴツとした岩が3つ並んでいます。

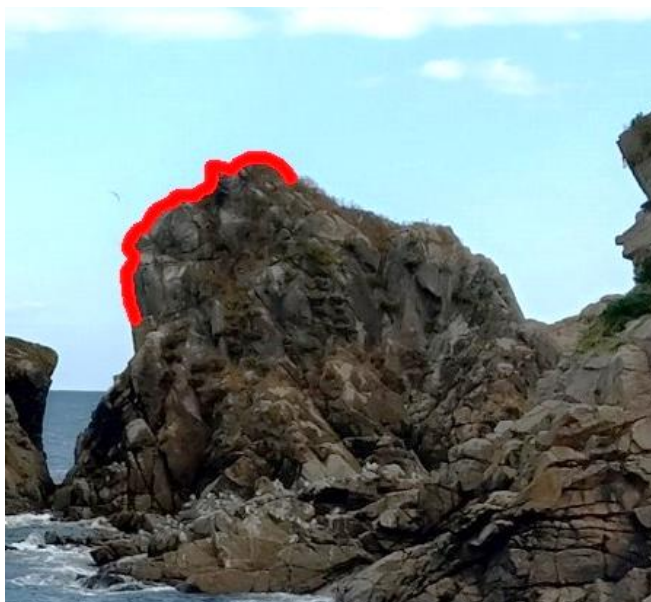
真ん中の岩をよく見てみると、ゴリラの顔が見えてきませんか？

えっ、よく分からない？

右の写真の赤線でなぞった部分を見てください。ゴリラの横顔に見えませんか？

健康のためにも自然の中を歩いてみるはどうでしょうか。

こんな風に、よく見ると何かが見えてくる岩や地形を発見できるかもしれませんよ！



<ゴリラ岩にまつわる昔話>

むか~し、むかし、たいそう働き者で、力持ちのめらし(娘)がおったそうな。そのめらしは「エン」という名で、親がなく一人で海辺の小屋に住んでおったそうな。浜仕事や山仕事も嫌な顔せず手伝い、誰にでも優しいエンは、村人たちに可愛がられ、年頃になると村の青年と結ばれることになったそうな。

しかし、エンには日が沈むと小屋にこもり誰とも顔を合わせない、不思議なクセがあったそうな。

いよいよ、結婚の日。村人が集まり宴を開いていたが、日が暮れ始めると、エンが小屋に帰ってしまったそうな。いなくなったエンを追って青年が小屋に入ると、そこにエンの姿はなく、一頭のゴリラがエンが着ていた着物を頭からかぶり隠れようとしていたそうな。驚いた青年が悲鳴をあげると、そのゴリラは海に向かって走り去り、そのまま暗い海に消えていったそうな。

その後、エンの姿を誰も見ることはなく、浜辺の岩が波に削られゴリラのように見えるようになっていったそうな。

注)このお話は「ゴリラ岩」をテーマにつくった創作です。この地に伝わる昔話ではありません。